

秋庭史典

(名古屋大学大学院准教授・美学)

「ハーネスの美学と芸術」

日時：2012年6月1日(金) 16:00~18:00

場所：早稲田大学50号館

(先端生命医科学研究センター-TWIns)

2F 共用会議室

www.waseda.jp/advmed/access/index.html



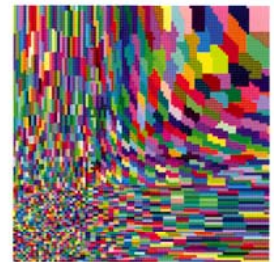
美学(aesthetics)の古典のひとつに、カントが著した『判断力批判』(1790)があります。その中でカントは、自然を機械論と目的論という二つの観点から捉え、自然科学の進展には、この二つの見方がともに必要であることを強調しています。そして、この二つの自然観に基づき、「美」に重要な役割を与えました。それは、機械論から見られた自然と目的論から見られた自然、この二つの自然観を橋渡しする、という役割です。カントの時代、科学は主として機械論的自然に関わるとされていました。が、それから200年以上がたち、現在では、科学が、美(美学)の領域にも深い関わりを持ち始めているように思います(疑似科学という意味ではなく)。このことを、わたくしにとって身近な情報科学を通して、なかでも自然計算とハーネスの考えを通して、お話してみたいと思います。さらに、この自然計算とハーネスの枠組みを通して、芸術(ならびに芸術作品)の位置づけについても、その歴史を概観しつつ、お話してみたいと思います。

Fuminori Akiba

名古屋大学大学院情報科学研究科・准教授

*本講演は、文科省科学研究費 基盤研究C「ポスト・ゲノム時代のバイオメディア・アートに関する調査研究」の支援を受けています。

秋庭史典
あたらしい美学をつくる



みすず書房

事前登録不要

お問い合わせ:

岩崎秀雄

(metaPhorest,早稲田大学)
[hideo-iwasaki\(at\)waseda.jp](mailto:hideo-iwasaki(at)waseda.jp)